

いのちの森づくりの輪!

開智学園の取り組み

(埼玉県さいたま市)



開智学園 理事長補佐 中村 宏

開智学園岩槻キャンパス(開智小・中・高等学校)の「森づくり」は、2004 年から始まります。当初は、コナラやクヌギのドングリを発芽させて、落葉樹の森に育てていました。宮脇方式との出会い、そして進和学園様から苗木の供給をいただけるようになって、密植・混植の混交林づくりに変化しました。

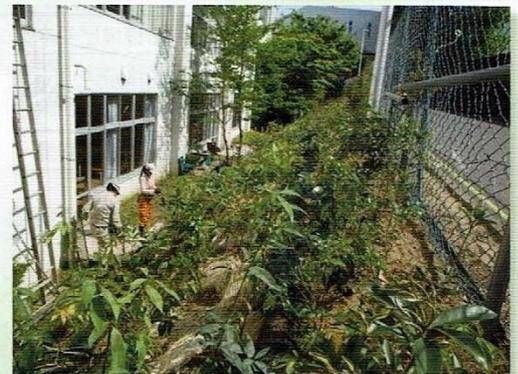
「森づくり」を進めてきて分かったことは、多くの児童・生徒が「苗木を植える」ことに強い興味を抱くことです。さらに、「いのちの森づくり」の考え方も、「心」で理解して行くことでしょうか。大人の集団では考えられないほど染み込んでいきます。

これからの社会を担う子供達が、「いのちの森づくり」で苗木を植え、その森の生長を見守ることは、何よりの学びの場となっています。

また、本キャンパスは、いたるところに斜面を抱えています。苗木が順調に生長して、斜面保全林としても機能を始めています。このことも、子供達にとっては驚きようです。

岩槻キャンパスが、未来に向かって「いのちの森」に育って行く様子を、成長する子供達と楽しんでいます。

和! フッ!



シバタ植物園 代表 柴田 修一

開智学園の森づくりを始めてから、随分、時が流れました。

初め、単一種類の苗木でしたが、だんだん種類を増やし、今では 24 種類を植えています。3、4 年経ちますと学生の目線の高さまで生長し、新芽の色や香り、紅葉など変化が楽しめます。学生さんのストレスを和らげ、写生大会などに利用され、森の大切さを学ぶ場となり、開智学園にはなくてはならない森になりました。

湘南国際村での研修を機会に進和学園・研進さんと知り合い、苗木を供給していただけるようになり感謝申し上げます。

開智学園の緑化は、北側の植樹、南面の植え込みと年度ごとに異なり、同じパターンでは駄目で、とても難しいと思います。地球温暖化により、これからは樹種や植え方などの変化も予想されますので研究していただきたいと思います。引き続き、苗木の供給を期待しております。

進和学園どんぐりグループの皆さん、益々のご活躍を期待しております。

参考：開智岩槻キャンパス自然回復プロジェクト

<http://www.kaichigakuen.ed.jp/cn38/pg455.html>

▲中村 宏様(後列中央)と柴田修一様(左から 2 人目)と一緒に! 秦野市栢窪植樹祭 (2019.4.14)